

PAT-NO: JP401095947A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 01095947 A

TITLE: SEAT STRUCTURE FOR CABOVER TYPE
VEHICLE

PUBN-DATE: April 14, 1989

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

YAMAMOTO, KAZUHISA

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

MAZDA MOTOR CORP

COUNTRY

N/A

APPL-NO: JP62254180

APPL-DATE: October 7, 1987

INT-CL (IPC): B60N001/02

US-CL-CURRENT: 296/63

ABSTRACT:

PURPOSE: To improve serviceability of an engine and the walkthrough quality by extending a service lid, which coats a service hole in a floor protrusive part, to the bottom of a front seat while constituting the front seat to be enabled to fall down sideways.

CONSTITUTION: A front floor 1 arranges an assistant driver's seat 5 serving as the front seat. The assistant driver's seat 5 from a floor protruding part 6 as an engine deck in one side in a car body inside while an engine storage

part 7 in the bottom of the engine deck. In this constitution, the assistance driver's seat 5 is supported through sliders 16 on a service lid 15, coating a service hole 14 in the floor protruding part 6, and a stay 17. And for the assistant driver's seat 5 to fall down sideways, the stay 17 pivotally mounts to its upper end a bracket 21 while fixing a base end part of the service lid 15 onto the bracket 21.

COPYRIGHT: (C)1989, JPO&Japio

⑫ 公開特許公報(A)

平1-95947

⑤ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 平成1年(1989)4月14日

B 60 N 1/02

Z-7049-3B

審査請求 未請求 発明の数 1 (全7頁)

⑭ 発明の名称 キャブオーバー型車のシート構造

⑯ 特 願 昭62-254180

⑰ 出 願 昭62(1987)10月7日

⑱ 発 明 者 山 本 和 久 広島県安芸郡府中町新地3番1号 マツダ株式会社内

⑲ 出 願 人 マツダ株式会社 広島県安芸郡府中町新地3番1号

⑳ 代 理 人 弁理士 永田 良昭

明 細 書

1. 発明の名称

キャブオーバー型車のシート構造

2. 特許請求の範囲

1. フロアパネルの車幅方向の一部を上方に突

設させてフロア突設部を形成すると共に、
このフロア突設部の下方にエンジン収納部
を形成したキャブオーバー型車のシート構
造であって、

フロントシートの一端部を上記フロア突設
部に載置すると共に、他端部をステーを介
してフロアパネルに支持させ、

上記フロア突設部のサービスホールを覆う
サービスリッドを、上記フロントシートの
下方まで延設し、

かつフロントシートの回転中心を該シート
が横倒し可能となるように車体前後方向に
設定した

キャブオーバー型車のシート構造。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

この発明は、例えば、運転席をエンジン上方に
配設したようなキャブオーバー型車のシート構造
に関する。

(従来技術)

従来、上述例のキャブオーバー(cab-over)型
車のシート構造としては、例えば、実開昭57-
53925号公報に記載の構造がある。

すなわち、フロアパネルの車幅方向のほぼ全体
を上方に突設させてフロア突設部を形成すると共
に、このフロア突設部の下方にエンジン収納部を
形成し、上述のフロア突設部の頂面にサービスホ
ールを開口して、このサービスホールを助手席シ
ート下面に一体的に設けたサービスリッドで開閉
可能に覆うように構成したシート構造である。

この従来構造においては、上述の助手席シート
の後端下面の車幅方向に設定された回転中心を支
点として、同助手席シートを後方へ跳ね上げて、
このシートと一体的にサービスリッドを開き、開
口されたサービスホールからエンジンサービスを

行なうが、助手席シートの破損および汚れその他を考慮して、この助手席シートがフロアパネルに当接しない所謂半開きの状態になるように設定されているので、充分な開口量が得られず、サービス性が悪い問題点を有していた。

加えて、上述のフロア突設部は車幅方向のほぼ全体に突設するものであるから、良好なウォークスルー性が得られない問題点があった。

(発明の目的)

この発明は、エンジンのサービス性の向上およびウォークスルー性の向上を図ることができるキャブオーバー型車のシート構造の提供を目的とする。

(発明の構成)

この発明は、フロアパネルの車幅方向の一部を上方に突設させてフロア突設部を形成すると共に、このフロア突設部の下方にエンジン収納部を形成したキャブオーバー型車のシート構造であって、フロントシートの一端部を上記フロア突設部に載置すると共に、他端部をステアを介してフロアパ

ネルに支持させ、上記フロア突設部のサービスホールを覆うサービスリッドを、上記フロントシートの下方まで延設し、かつフロントシートの回転中心を該シートが横倒し可能となるように車体前後方向に設定したキャブオーバー型車のシート構造であることを特徴とする。

(発明の効果)

この発明によれば、上述のフロア突設部のサービスホールを覆うサービスリッドを、フロントシートの下方まで延設しているのので、サービスホールの開口量を大きく設定することができる。

しかも、上述のフロントシートは車体前後方向に設定された回転中心を支点として、横方向に傾倒させる所謂横倒しにすることができ、この横倒し時に上述のサービスリッドを開放してサービスホールを開口することができるので、充分な開口量が得られて、エンジンのサービス性が向上する効果がある。

加えて、上述のフロントシートを横倒しにした時、フロアパネルには乗員がフロント側からリヤ

側へ、またリヤ側からフロント側へ往き来きできるウォークスルー空間が形成されるので、良好なウォークスルー性の確保ができる効果がある。

(実施例)

この発明の一実施例を以下図面に基づいて詳述する。

図面はキャブオーバー型車のシート構造を示し、第1図乃至第3図において、フロントフロア1とリヤフロア2とを同一面のフラットフロアとなしたフロアパネル3を設け、このフロアパネル3における上述のフロントフロア1の所定部にフロントシートとしての運転席シート4および助手席シート5を配設している。

そして、上述の運転席シート4と助手席シート5との間には、フロアパネル3の車幅方向の略中央部の一部を上方に突設させてエンジンデッキとしてのフロア突設部6を形成すると共に、このフロア突設部6の下方にはエンジン収納部7を形成している。

また上述のフロアパネル3の前端部には上下方

向に延びるトーボード8を一体的に形成し、このトーボード8にアクセルペダル、ブレーキペダル等を支持すべく構成している。

ところで、前述の運転席シート4および助手席シート5を第1列シートとすると、フロアパネル3上には該第1列シートの後方に第2列シート9および第3列シート10を配設している。

ここで、上述の運転席シート4は第3図に示す如くフロア突設部6の右側に位置し、フロントフロア1上にブラケット11、11、フレーム12および該運転席シート4の前後方向への移動を許容するスライダ13、13を介して取付けたフロントシートである。

また上述の助手席シート5はフロア突設部6の左側に位置し、該フロア突設部6に開口形成したサービスホール14を覆うホールカバーとしてのサービスリッド15上のスライダ16、16(第4図参照)と、支持脚としてのステア17により支持している。

通常、上述の助手席シート5は第3図に示すよ

うに、その一端部をフロア突設部6に載置した状態にあり、サービスリッド15でサービスホール14を閉成した状態となっている。

上述の助手席側の構造について更に詳述すると、第4図に示す如く、下部の接合フランジ18上に立設したステー17を助手席シート5下部に所定間隔を隔てて2組設け、これら2組のステー17、17をボルト19…によりフロントフロア1に固定している。

また上述のステー17上端には、助手席シート5を横倒しすべく車体前後方向に向く回転中心としてのピン20を介してブラケット21を把持し、このブラケット21上に上述のサービスリッド15の基端部を固定している。

このサービスリッド15の遊端側において、前述のサービスホール14の口縁と対向する下面部分にはシール部材22を取付けて、このシール部材22を介して上述のサービスリッド15でサービスホール14を開閉可能に覆うように構成している。

点検を行なう際には、まず助手席シート5のシートバック5bをシートクッション5aに対して後方に倒す。

次に車体前後方向に延びる回転中心としてのピン20を支点として、助手席シート5をスライダ16、16およびサービスリッド15と共に、横倒しにして第5図の如く成す。

第5図に示すように、上述の助手席シート5およびサービスリッド15を横倒しにすると、フロア突設部6のサービスホール14が大きく開くので充分な開口量が得られて、エンジン25のサービス性が向上する。

しかも、助手席シート5を第5図に示す如く横倒しにした際、フロントフロア1には、フロント側からリヤ側へ、またリヤ側からフロント側へ往き来きできる充分広いウォークスルー用の空間31が形成されるので、ウォークスルー性の向上を図ることができる効果がある。

第6図はシート構造の他の実施例を示し、助手席シート5におけるシートクッション5a下部の

上述のサービスリッド15は助手席シート5のシートクッション5a下方まで延設し、この延設部15a上に左右のスライダ16、16を介して助手席シート5を搭載している。

上述のスライダ16、16はサービスリッド15に固定したロアレール23と、シートフレームに固定したアッパレール24とを備え、助手席シート5の前後方向への撓動を許容する。

なお、サービスホール14閉成時におけるサービスリッド15は、その複数箇所をロックレバー、係止フック、係止バンドからなる周知のロック手段(図示せず)により、アンロック可能に前述のフロア突設部6に固定することは勿論である。

また図中、25はエンジン、26はパワートレオン系、27はリヤプロペラシャフト、28はフロントプロペラシャフト、29は前輪、30は後輪である。

図示実施例は上記の如く構成するものにして、以下作用を説明する。

フロア突設部6下方に配設したエンジン25の

フロア突設部6側のスライダ16のアッパレール24に、心棒ホルダ32を固定し、この心棒ホルダ32内に挿通して両端を同ホルダ32外へ突設させた車体前後方向の回転中心としての心棒33を設け、この心棒33の突出部分をシートバンに取付けている。

一方、サイドドア側のスライダ16のロアレール23にはブラケット34を固定し、このブラケット34に支軸35を介してパイプ材からなる略U字状のステー17を可回転に連結している。

また上述のステー17の下端中央部にロックレバー36を回動可能に取付けると共に、このロックレバー36に対応するフロントフロア1上にはストライカ37を固定している。

そして、上述のロックレバー36を手動操作することにより、このロックレバー36がストライカ37に係合したロック状態と、係合が解除されたアンロック状態とを択一的に得るように構成している。

なお、上述のストライカ37が取付けられるフ

フロントフロア1は若干窪ませて凹部1aとし、ストライカ37がフロアパネル3上に大きく突出しない構造になっている。

また前述のサービスリッド15は、その後端に設けた車幅方向に向く回転中心を支点として跳ね上げ式に開閉し、開状態におけるこのサービスリッド15は前述の周知のロック手段によりアンロック可能な状態にフロア突設部6に固定することは先の実施例と同様である。

この実施例において、フロア突設部6下方に配設したエンジン25の点検を行なう際には、まず助手席シート5のシートバック5bをシートクッション5aに対して後方に倒す。

次にロックレバー36をストライカ37から外した後に、ブラケット34の支軸35を中心として前述の略U字状のステー17をシートクッション5aの底面に折りたたむ。

次に車体前後方向に延びる回転中心としての心棒33を支点として、助手席シート5を横倒しにして第7図の如く成す。

次に上述のシート5の横倒しの後に、後端に設けた車幅方向に向く回転中心を支点として跳ね上げ式のサービスリッド15を開くと、フロア突設部6のサービスホール14が大きく開くので、充分な開口量が得られて、エンジン25のサービス性が向上する。

加えて、第7図に示すように助手席シート5を横倒しにした際、フロントフロア1には、フロント側からリヤ側へ、またリヤ側からフロント側へ行き来できる比較的広いウォークスルー用の空間38が形成されるので、ウォークスルー性の向上を図ることができる効果がある。

なお、第6図、第7図において第4図、第5図と同一の部分には同一番号および同一符号を付している。

この発明の構成と、上述の各実施例との対応において、

この発明のフロントシートは、実施例の助手席シート5に対応し、

以下同様に、

車体前後方向の回転中心は、第1実施例のピン20および第2実施例の心棒33に対応するも、

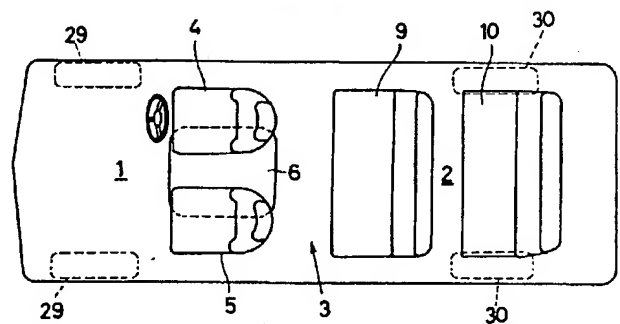
この発明は、上述の実施例の構成のみに限定されるものではない。

4. 図面の簡単な説明

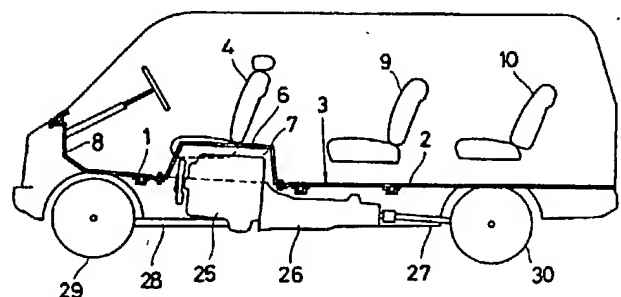
図面はこの発明の一実施例を示し、
第1図はキャブオーバー型車のシート構造を示す概略平面図、
第2図はシート構造の概略側面図、
第3図はシート構造の概略正面図、
第4図は第3図の要部の拡大断面図、
第5図は助手席シートの横倒し状態を示す説明図、
第6図はシート構造の他の実施例を示す断面図、
第7図は第6図のシートを横倒しにした状態を示す説明図である。

- | | |
|------------|------------|
| 3…フロアパネル | 5…助手席シート |
| 6…フロア突設部 | 7…エンジン収納部 |
| 14…サービスホール | 15…サービスリッド |
| 17…ステー | 20…ピン |
| 33…心棒 | |

第1図

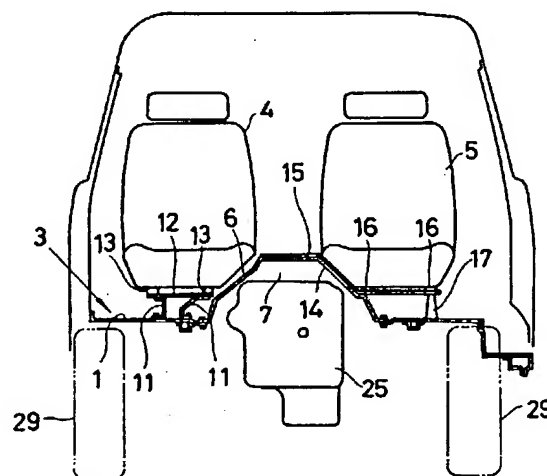


第2図



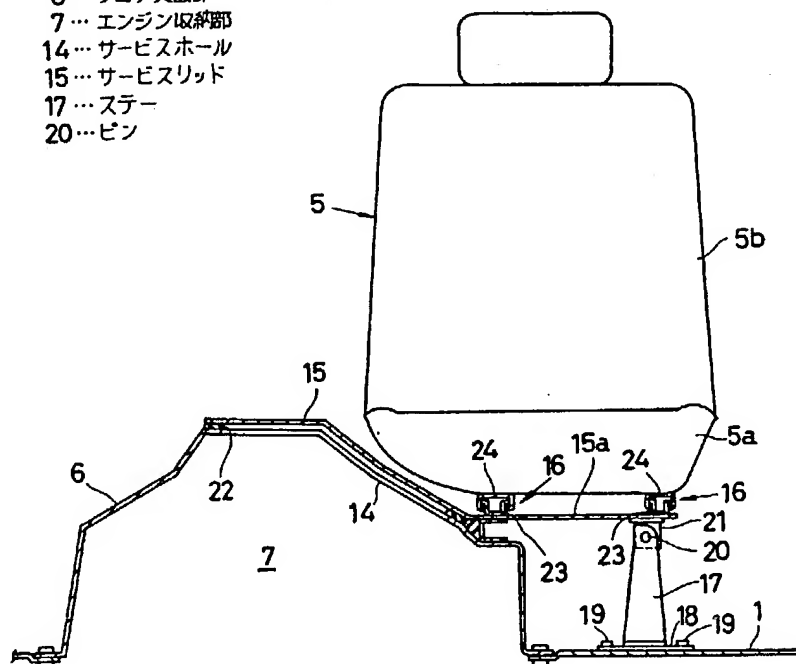
第3図

- 3...フロアパネル
- 5...助手席シート
- 6...フロア突設部
- 7...エンジン収納部
- 14...サービスホール
- 15...サービスリッド
- 17...ステー

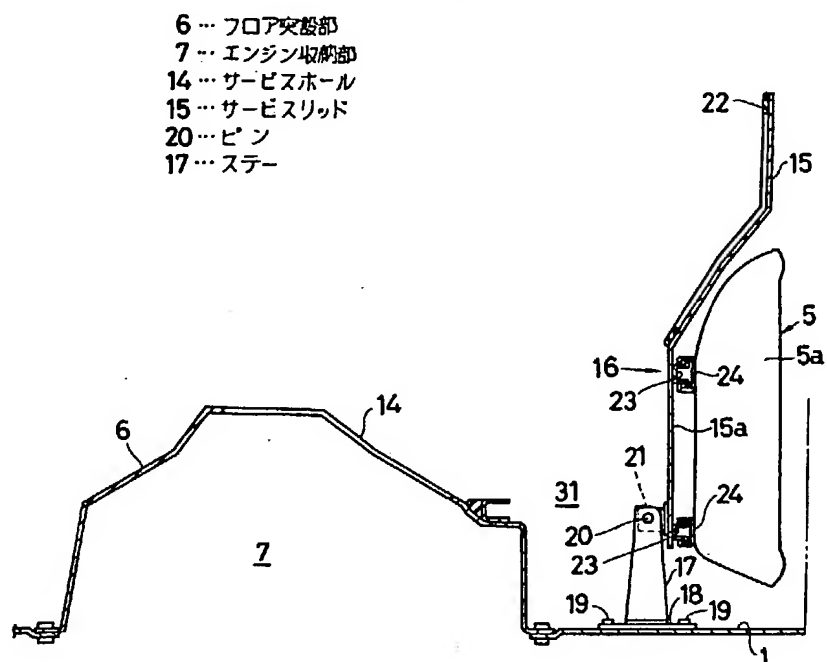


第4図

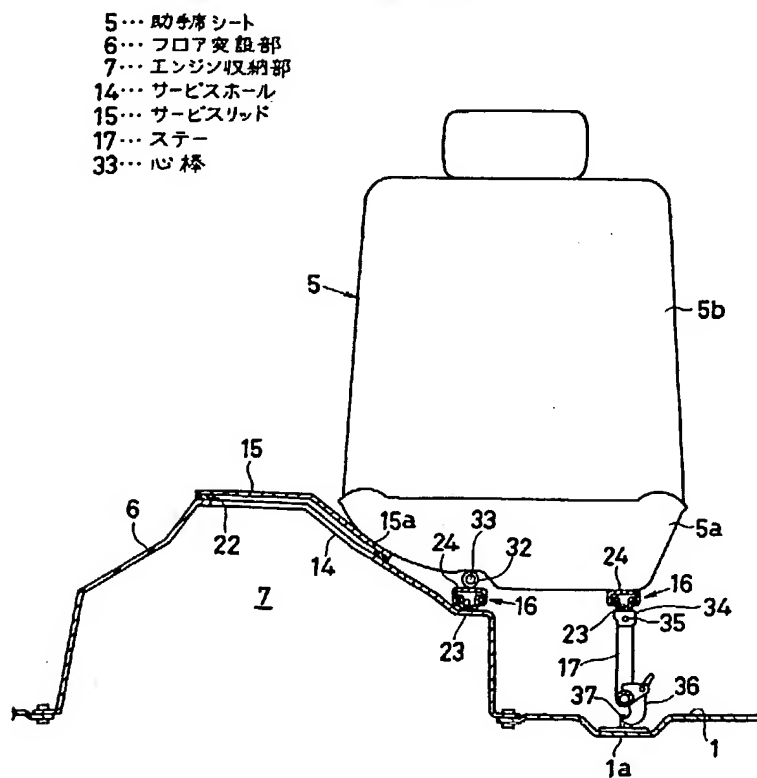
- 5...助手席シート
- 6...フロア突設部
- 7...エンジン収納部
- 14...サービスホール
- 15...サービスリッド
- 17...ステー
- 20...ピン



第5図



第6図



- 5… 助手席シート
- 6… フロア突設部
- 7… エンジン収納部
- 14… サービスホール
- 15… サービスリッド
- 17… ステア
- 33… 心棒

第 7 図

